

令和2年6月19日 市長定例記者会見 会見録

【司会】

ただいまから市長定例記者会見を開催いたします。本日の話題は1件です。市長、よろしくお願いいたします。

【市長】

お待たせをいたしました。

今日は「静岡市はいいねえ。スタンプラリーの開催」。これ、総務局の市長公室広報課の立案した事業なんですけれども、その前垂れに、それと連動した事業であります、「GoToしずおか商品券」。このことについて少し付け加えたいと思います。ちょうど1週間前、先週の金曜日、6月12日に報道機関の皆さんには資料を提供させていただきましたが、いよいよ本日から、このGoToしずおか商品券、この配付が始まります。この事業は市内の対象施設に一人当たり1泊 6,000円以上のプランで泊まっていただけ、静岡市民をはじめとする県民の皆さんに一人当たり2,000円の商品券を配付いたします。

ご承知のとおり、社会経済活動を維持する、そして消費を喚起していくという下支えの経済対策の一環であります。これをまずは県民の皆さんを対象に交流人口の拡大を目指していくことでもあります。クーポン券を置いていただける宿泊施設は、現時点では72施設であります。そして、このクーポン券を利用できるお店はなんと322店あります。この裏面に記載をしてありますとおり、六つのカテゴリで、こんなところで使えますということでもありますので、静岡グルメの堪能できる飲食店や静岡土産を買えるお店のみならず、連携中枢都市圏を形成している4市2町、藤枝市、島田市、焼津市、牧之原市、吉田町、川根本町の一部のお店などもこの対象に含まれております。利用は8月10日までであります。ぜひ、静岡市内に宿泊をしていただいて、オクシズやしずまえ、そして、中部地域の観光をお楽しみいただきたいというふうに思います。

私が嬉しいのは、私の市政運営の一丁目一番地キーワードは連携であります。縦割り行政の中で同じような種類の政策をバラバラにやっているのではなくて、このような形のコロナに対応する経済対策の一環で、観光交流文化局の観光MICE推進課と民間の「するが観光企画局」、この官民連携の中で、そして、さらにこの市長公室の広報課と連動して、東になって経済の活性化、交流人口の拡大を通して、社会経済活動を下支えしていこうと、そんな取り組みであります。そういう意味では、局間連携であるとか官民連携が一つの大きな事業として功を奏しているなということを市長としてはたいへん力強く思っております。心強く思っております。

そんな前垂れをした上で、今日の話題、「静岡市はいいねえ。スタンプラリー開催」の方に移りたいと思います。同じ趣旨であります。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、今なお市民の皆さんの出控えが続いている感がありますが、生命のLifeだけではなくて、くらしのLifeを取り戻す意味でも、市民の皆さん、さらには県民の皆さんを対象に、静岡市内での観光経済活動を回復するべく、この企画を実施していくものであります。

この静岡市はいいねえ。というキャッチフレーズは一昨年8月にご逝去され、静岡市初めての市民栄誉賞を受賞された本市出身の漫画家、さくらももこさんによるものであります。このさくらももこさんが私たちに残していただいたレガシー、これを求心力に最大限活用して、オリジナルイラストを使わせていただき、シティプロモーションをしていこうということでもあります。

今回のスタンプラリーでは、静岡市の大切な財産である、さくらももこさんのイラストにまつわる市内10カ所の観光スポットをスタンプポイントとし、三つのコースを設定いたしました。これもお手元に配付している資料のとおりであります。これですね。このスタンプポイントを巡ることにより、静岡市の魅力を再発見していただくことができ、あわせてスポットごとのさまざまな体験をしていただいたり、周辺で飲食やショッピングを楽しんでいただいたりすることで経済活動の促進につながるということを期待しているものであります。

この裏面のスタンプラリーのコースは三つ用意しました、Aコース、Bコース、Cコース。

一つ目のAコース、家族団らんコースはオクシズの温泉とか日本平動物園、ホビースクエアという、子どもも大人も楽しめる、そんなスポットを集めました。もちろんカップルでもお一人さまでも大歓迎であります。

二つ目のBコース、歴史探訪コースは、静岡市の魅力の一つである歴史資源を直接感じるができるスポットを巡るコースで、弥生時代の登呂遺跡から戦国江戸時代、家康公ゆかりの駿府城公園、東照宮まで、歴史ロマンに触れていただけるコンテンツとなっています。

さらに三つ目の潮風満喫コースは、海の近くの清水港周辺などの施設を中心に構成し、美しい風景や潮風を感じながらウォーターフロント、海沿いを巡ってゆっくりと一日を過ごせるコースとなっています。先ごろ開始したシェアサイクルのPULCLEもこの潮風満喫コースにはお勧めであります。こんな三つのコースを利用して、県外に行く、海外に行くということではなく、意外と灯台下暗しでありますので、身近にある観光地、あるいは魅力のある場所を回っていただきたい。それを促進するような内容になっています。

そして、これに参加をしてくださった、このスタンプラリーに参加をしてくださった皆さんにはプレゼントを3種類、用意しております。これもさくらももこさんのオリジナルイラスト入りの限定品であります。一つのコースを回っていただいた方にはクリアファイル。見本はあるのかな、見本はないのかな、二つ回ってくれたところはさくらももこさんオリジナルのボールペン。そして、3コース10カ所すべてコンプリートしてくださった方はオリジナルのトートバッグをいずれか一つ差し上げます。

さらに3コース10カ所すべてを巡っていただいた方には、まさにさくらさんのように静岡市を愛してくださっている方々でありますので、抽選でダブルチャンスとして日本平ホテルのペア宿泊券を2組、そして、これも手元に資料を用意していただいていると思いますけれども、静岡葵プレミアムの認定商品です。この静岡市特産品詰め合わせ1万円分を10名様にプレゼントしたいと思います。

実施期間は7月の1日から8月の31日です。さきほどのGO TO しずおか商品券をプレゼントするキャンペーンと相まって、さくらももこさんの愛したまちを巡っていただきたいと思います。

さくらももこさんが残してくれた、静岡市はいいねえ。という言葉を実感していただく、そんな夏になってもらえれば嬉しいなというふうに思っています。今回のスタンプラリーはこれ1回で終わらせるも

のではなく、さくらの想いを将来に、未来に繋げていくよう育てていく事業にしていきたいと考えております。私からは以上です。

【司会】

それではただいまの発表項目につきまして、ご質問がある方はお願いをいたします。ご質問の際は社名とお名前をおっしゃってからお願いをいたします。いかがでしょうか。よろしいですか。それでは幹事社質問の方に移りたいと思います。テレビ静岡さん、よろしくお願ひいたします。

【テレビ静岡】

すいません、幹事社、テレビ静岡から2点お伺いさせていただきます。市長は先の本会議で清水庁舎の移転並びに海洋文化施設、歴史文化施設の整備という三つの大型事業の一時停止について陳謝されたわけですが、一方で目処が立ったものからリスタートしたいと述べられておまして、この目処というのはどのぐらいの期間をイメージされているのか。またはその判断基準は何か。また、リスタートという言葉には場合によっては白紙に戻すという意味合いも含まれるのか、お聞かせください。

【市長】

今回の三つの大型事業の一時停止は新型コロナウイルスの感染症により大きな影響を受けた社会や経済の状況に対応するため、事業の見直しを行う必要が生じたことから手続きを一時停止したものであり、中止を前提にしたものではありません。リスタート、再開に向けては感染拡大防止や民間事業者の参入促進の対応などの視点で見直しを行っていき、具体的な期日は定めておりませんが、対応の目処が立ったものから事業を再開していきたいと考えております。

【テレビ静岡】

ありがとうございました。

【司会】

それでは各社さんからご質問をお受けしたいと思います。いかがでしょうか。NHKさん、どうぞ。

【NHK】

NHKです。リニア中央新幹線について伺います。来週にも川勝知事と金子社長が会談をすることで調整が進んでいるようですが、先日も流域市町の首長さん方と川勝知事が今、JRがやろうとしていることは本体工事そのものであると、これを認めないという見解で一致されましたけれども、市長はこの議論をどうご覧になっているのか。JRが言うような、周りをならすですとか、伐採するですとか、そういったことはやってもいいと思っていらっしゃるかとかなど、お考えをお聞かせください。

【市長】

私もたいへん関心を持ってこれを見ております。とりわけ連携中枢都市圏を構成している5市2町の首長さん、このことについて、水の問題について、とても心配しておりますので、このウェブ会議に参加された流域市町の皆さんと私も認識を共有して、利水という立場では大井川と安倍川と立場違いますけれども、いずれにしてもとても水の問題を懸念し、また現在、国の専門家会議による議論が継続されているところであるため、そうした議論の中で大井川の水問題に対する懸念が払拭することを期待しております。以上です。

【NHK】

お考えとしては流域市町と首長さんと同じということは、JRが言うような周辺の工事は現時点では入るべきではないというお考えでしょうか。

【市長】

これは国交省の方もコーディネートしていただきますけれども、具体的に準備工事と本体工事がなんなのかという前向きな、建設的な議論を進めていただくことを期待しています。

【NHK】

来週その金子社長と知事との対談についてはどういった議論が進むことを期待されますか。来週金子社長と川勝知事の会談ではどういったことを期待されますか。

【市長】

やはり直接会うということがとても大事だというふうに思います。お互いの立場を尊重して、そして、face to faceで会うことによって、少しでもこの議論が前に進むことを期待しています。

【NHK】

もう一つ、別の角度から。今年度、静岡市としても2027年の開業を予定していることを明記した上でのリニアの研究会、まちづくりの研究会、設置予定されていました。この事業は予定どおり進められるということなののでしょうか。

【市長】

私たちは合意をしましたので、その協定の中で粛々と協力すべきものは協力をしていきたいというふうに思っています。ただ、やはり県の合意がなければこれは実行できない面も多々ありますので、直接金子社長と川勝知事の会談に期待しております。

【NHK】

リニアの商工会議所などとの研究会は予定どおり進めたいということですか。

【企画局長】

企画局です。今のご質問は、企画課が予算化している、リニアが開通したらその時のまちづくりをどうするかという、そういう研究事業のご質問かと思えます。我々としては、開業するだろうという前提で、どういうまちづくりをするべきかという、その研究事業は今年度80万の予算を持っておりまして、予定どおり進めるつもりでおります。

ただ、現時点ではコロナの影響もあって会合等は開けていない状況です。以上です。

【NHK】

これで最後ですが、市長も2027年開業は目指すべきというお考えですか。

【市長】

もちろんそれが金子社長の思いでしょうから、金子社長の思いと川勝県知事の思いが直接議論を重ねることによって合意をしていただきたいというふうに思っています。

【NHK】

すいません、市長の思いとしては2027年の開業、これは目指されるべきだということでしょうか。

【市長】

私は今の事態を見守っていきたいというふうに思っています。

【NHK】

2027年を守るべきとも、そこを拘るべきではないという、どちらでもないということでしょうか。

【市長】

静岡市は2027年という金子社長の思い、私も1970年代から、このリニアモーターカーの技術がもう亡くなった先人の方々、国鉄時代からの技術人が技術の粋を集めた、そして、積み重ねてきた50年来のものでありますので、その中で2027年ということになんとしても開業したいんだという金子社長の思いを受けて、私どもも南アルプスエコパークの環境保全はしなければならないという思いを伝えて、その中で合意に至ったものであります。

お互いの立場を尊重するということが大事なのだろうと思い、静岡市は一昨年6月に合意をいたしました。かなり厳しい状態だというふうに金子社長もおっしゃっておりますので、ぜひ合意に向けて建設的な、前向きな議論が進んでいくことを私は期待をしております。

【NHK】

ありがとうございました。

【司会】

その他はいかがでしょうか。どうぞ。

【静岡朝日テレビ】

すいません、静岡朝日テレビです。昨日、大道芸ワールドカップ中止発表されましたけども、市長として受け止めていただければと思います。

【市長】

残念です。実行委員会の方々もなんとか、11月のことですので実行できないか、開催できないかとギリギリまで模索をしてくださいましたし、静岡市もそれを尊重をしておりましたが、こういうことになってしまいました。

やはり国内はもとより世界的な危機でありますので、海外から招聘するパフォーマーの方々との関係においても今年はなかなか難しいというような扱いになったようであります。また、このためには準備期間、半年間ぐらいはいるということで、今月中にはこれを決定しなきゃいけないという中でのギリギリの決断だったというふうに思っています。市民生活、来場者、出演者、1,000人以上の市民ボランティアの安全を第一に考えた結論だというふうに受け止めています。

【静岡朝日テレビ】

ありがとうございます。

【市長】

その代わり、来年はここで立ち止まることを一つの契機にして、第30回に向けて、さらに静岡市はこの大道芸ワールドカップを力強く推進を支えていきたいというふうに思っています。

【司会】

その他、いかがでしょうか。よろしいですか。では、時事さん、先にどうぞ。

【時事通信】

すいません、時事通信です。昨日、安倍首相が新型コロナウイルスの感染症による移動自粛を全面解除ということが表明されましたけれども、これについての受け止めと、さきほどの発表の中でもスタンプラリー等は静岡県内の方対象なんですけれども、今後、その首都圏なども含めた交流についてどういうふうにお考えかお聞かせください。

【市長】

私どもは国のステップというものを大枠にしながら社会経済活動の維持と感染拡大防止の両立を図っていくという基本方針であります。ただし、一方でより安全な方策の中で地域経済の活性化を図っていくという点で、まずは静岡県内に限定した交流人口の拡充ということで、この商品券であるとか、スタンプラリーという事業を実行したいというふうに思っています。

【司会】

よろしいですか。その他、いかがでしょうか。ではNHKさん。

【NHK】

NHKです。昨日、黒俣川上流のソーラーパネル設置計画について説明会が開かれて、住民の方、オクシズの環境を守っている立場から、ご自身たちに権限がない中でも反対をされていかれるということを表明されていました。この件は地元の尾崎行雄議員中心に市議会でも関心が高いようですが、市として今後どういった対応をされるか、お考えをお聞かせください。

【市長】

私の元にも先週の木曜日、6月11日に清沢自治会連合会の役員と皆さんから要望書を提出され、私、受け止めさせていただきました。たいへん、この事業に対して不安を持っているということをご直接聞かせていただきましたので、皆さんの声をしっかり受け止めて、行政としてこの不安を払拭するべく取り組んでいきたいなというふうに思っています。

【NHK】

静岡市として、1ヘクタールを超えない面積ですので許可をしないという決定は法的にはできないと思いますが、では市としてどういった対応をされるのか、もう少し具体的にお願います。

【市長】

まず私自身、近々現地を見てくるつもりであります。そして、自治会の皆さんも近々、県土木事務所の方にも要望に行ってくるということを賜っておりますので、これも県市連携の下でどう対処できるのかということについて取り組んでいきたいと思っております。やはり出水シーズンを前にして土砂崩れが起こったり、あるいはオクシズの大事な自然環境が毀損したりということを、私たちは避けなければいけない命題だと思っておりますので、そのところについてしっかり関心を持って、懸念を持って取り組んでいきたいと思っております。

【NHK】

市長から直接、県にも砂防法の関係ですか、許認可の是非について働きかけをされるということでしょうか。

【市長】

そんなことも想定の中にはありますけれども、いずれにしてもまずはその問題の共有化を図ることが大事なのだろうというふうに思っています。

【NHK】

ありがとうございます。

【司会】

その他、いかがでしょうか。ではどうぞ、NHKさん。

【NHK】

引き続きすいません。河井克行前法務大臣の逮捕について、いろいろ威圧的ですか、パワハラ気質ですか、人格も含めていろんな報道がされる中で逮捕ということになりましたけれども、松下政経塾以来からの盟友である田辺市長から見て、河井容疑者がどういった人物であったのか、今、報道されていることや逮捕容疑について、どういう思いでご覧になっているのか、お聞かせください。

【市長】

残念です。報道されているようなことが市民、あるいは国民の皆さんの政治家に対する不信感、いわゆる政治不信が高まっていくということを、とても残念に思っています。

【NHK】

市長個人から見た河井克行さんはどういった方で、今、伝えられていることはどう思われていますか。

【市長】

私は 20 代の時にいろいろな経験をしましたけども、その時は一生懸命頑張っているという印象がありました。やはり私自身も襟を正さなきゃいけないなと思いますし、初心というものを大事にしなきゃいけないなということを改めて感じました。

【NHK】

報道されているような独善的とか、いろいろ強引とか言われていることは市長の目にはあまり印象を持っていらっしゃるのでしょうか。

【市長】

それはやっぱりいろんな仲間、それぞれ個性はありました。彼も私にはないような個性がありました。

【NHK】

議員さんにお金配るのは別にして、ウグイス嬢の報酬については、あれだけスキルのある方に一日重労働強いるのにそもそも1万 5,000 円という法定の金額が安すぎるということをおっしゃる政治家の方もおられますけども、市長はご自身、選挙をこれまで重ねてこられた中でその辺り、どう思っていますでしょうか。

【市長】

首都圏とか広島の記事は分かりません。しかし私はやはりこれは法律で定められている以上、法定の中でお願いして選挙をやってきましたので、そのことについては遵法精神に則っていかねばいけないというふうに思っています。

【NHK】

ありがとうございます。

【司会】

その他、よろしいでしょうか。中日新聞さん、どうぞ。

【中日新聞】

中日新聞です。静岡大学の再編統合問題についてお聞きしたいのですが、先日、第2回会合の報告は出されまして、委員の方の7割、8割の方が、疑義が残る、不安だという声が出ておりました。また、大学が目指すスケジュールと比べて、ややこの議論の進展が遅れているような印象もあるのですが、市長として受け止めに教えてください。

【市長】

これもコロナのことがあって、少し遅れているような感じに私も受け止めておりますが、静岡大学を静岡地区と浜松地区の二つに分けることについて必要性を理解するまでには至っていないというふうに思っています。あえて分割することのメリットが分かりづらいというふうに受け止めております。また、静岡大学をこれからどうしたいのかと。私はリカレント教育であるとか、世界に開かれたとかいうことをすごく強調しているのですが、静岡大学の自身の将来像が明確になっていない。こういうことが議論になってしまっているのだらうなというふうに思っています。拙速だったのではないかなというふうに思っています。まず、そのあとの静岡地区と浜松地区の大きな静岡大学の将来性を示してほしいなというふうに願っております。

これはすでに委員である小長谷副市長から協議会で提言をしているところであります。

【中日新聞】

ありがとうございました。

【司会】

SBSさん、どうぞ。

【SBS】

すいません、SBSです。幹事社質問にもあったのですけれども、三つの事業の一時停止について、いかに事業性を高めていくのかという視点を持って再検討を進めて、目処が立ったものからというふうにあるのですけれども、こういったご時世、コロナいつ終わるか分からない中で、市長の中で目処という明確な意味合い、今の時点で考えていることなどありましたら、ぜひ教えてください。

【市長】

これは実務的には企画局長にも発言をしていただきますけども、やはりこの三つの事業、それぞれ背景が違います。今回は3事業包括して一時停止しましたけれども、今までの経過、時間の長さ、あるいは建て付け、すごく違います。そんなことも勘案をしながら見直しを図っていくということが大事なのだろうというふうに認識をしております。企画局長、何かあれば。

【企画局長】

企画局です。今、市長が述べられたとおり、ここの事業の背景、それから社会状況が今後どうなるかということも含めて目処というふうに考えています。以上です。

【SBS】

ありがとうございます。

【司会】

その他、よろしいでしょうか。どうぞ。

【静岡第一テレビ】

すいません、静岡第一テレビです。今の質問に関連してなんですけれども、市長の最初の幹事社質問で、中止を前提にしたものではありませんというふうにおっしゃっていたと思うのですけれども、清水庁舎について移転建て替えは、やはりその前提は変わらないということでしょうか。現庁舎を耐震化して使い続けるという検討も今後されていかれるのでしょうか。教えてください。

【市長】

一番大事なのは、ポストコロナの時代のライフスタイルというのがどういうことかということであります。今までは大勢の人を1カ所に集客をするという形でいろいろな活性化が行われてきたり、コンサート、イベント等が行われてきましたけども、この距離を越えたようなICT技術の発展による、様々な事業

の仕方ということもありますし、また、市役所業務もこれから電子化であるとか、リモート化ということが大事になってくる。つまり、先日の記者会見でも申し上げましたとおり、今、感染拡大防止と社会経済活動の維持という喫緊の課題に取り組んでおりますけれど、一方で中長期的なこの危機が終わったあとの社会像ということがどうなるかという議論も始めております。

そういう新しい生活様式、ライフスタイルに相応しいこの庁舎であるとか海洋博物館、どうあるべきかと。そんなこともこれから考えていかなければいけないなというふうに思っています。

【司会】

その他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは以上で本日の定例記者会見を終了させていただきます。次回の記者会見は7月7日、火曜日、午前11時からとなりますので、よろしく願いいたします。本日はありがとうございました。